

5 - 4 松山地方の地殻変動 (3)

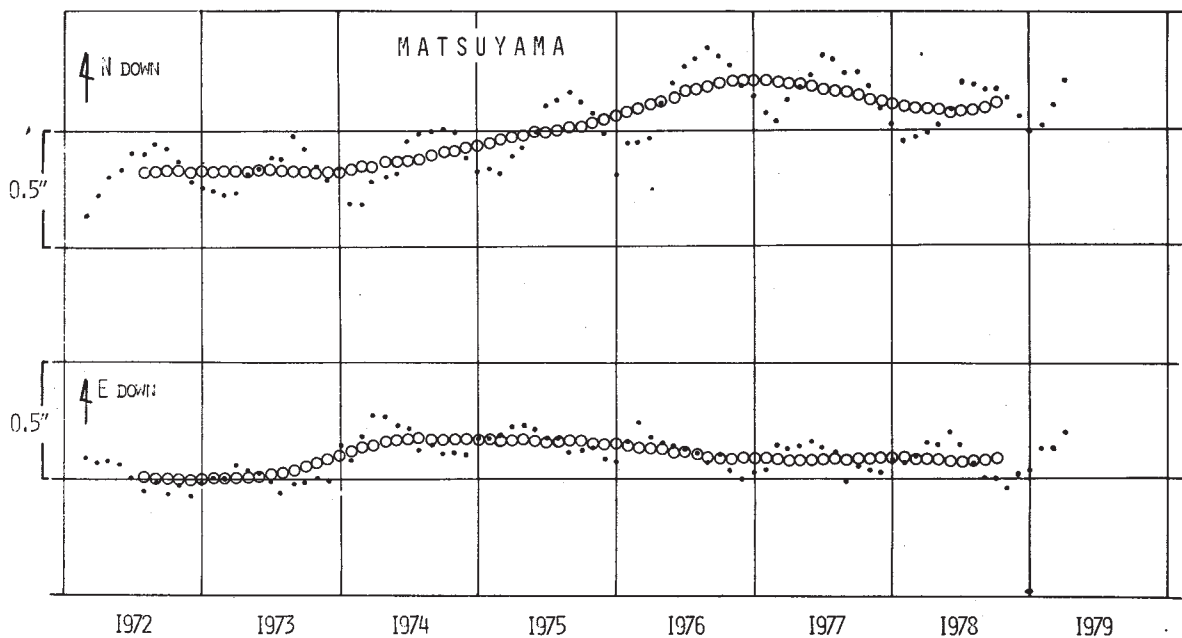
Crustal Movements in Matsuyama District(3)

東京大学地震研究所

松山地殻変動観測所

Earthquake Research Institute, University of Tokyo
Matsuyama Crustal Movement Observatory

前報 (予知連会報第 18 巻 (1977), 120) に引続き, 水管傾斜計の観測結果を報告する。NS 成分 (NE - SW, NW - SE 両成分から合成) は 1960 年代後半以降, ほぼ一定値を保ってきたが (前報参照), 1974 年初頭のころから再び N 下りの傾動を示すようになり, 1977 年までに約 0.5 秒角を記録した。その後の動きは比較的少く, 現在にいたっている。なお, EW 成分は格別の動きを示していない。



第 1 図 松山における土地傾斜永年変化 (水管傾斜計読取値から合成した NS, EW 成分の月平均値 (●) とその移動平均値 (○))

Fig. 1 Ground tilts at Matsuyama (monthly mean value in the NS and EW components (●) and their running mean value (○)).